「省エネルギーセンター」ダウンロードファイル（無断転載、翻訳を禁ず）

対　策　分　析　シ　ー　ト

対策メニュー名	コンプレッサーの吐出圧の低減	シート番号	A14111
システム・設備	圧空システム	6 類型	運用改善
削減余地順位	全体：53 位　産業部門：20 位　業務部門：99 位		

診断結果と対策提案実施の状況（診断結果は H28～R2 年度診断分、提案実施状況は H28～H31 年度診断分）

表 1．診断結果（対策の削減余地・診断時の提案率）　▶ 削減余地の大きい 5 業種（診断件数 20 以上）

	全体	産業部門	業務部門	25~31 機械工業	21 窯業・土石製造業	24 金属製品製造業	88 廃棄物処理業	18 プラ製品製造業
削減余地 [千 t-CO_2]	468	428	40	96	34	26	22	14
診断件数	3,303	1,216	2,087	127	35	210	42	69
診断時提案数	639	563	76	72	16	123	15	29
診断時提案率	19[%]	46[%]	4[%]	57[%]	46[%]	59[%]	36[%]	42[%]

表 2．対策提案の実施状況

	全体	産業部門	業務部門	25~31 機械工業	21 窯業・土石製造業	24 金属製品製造業	88 廃棄物処理業	18 プラ製品製造業
事業報告書提案数	535	472	63	55	13	96	12	21
事業報告書実施数	122	112	10	14	1	36	3	6
事業報告書実施率	23[%]	24[%]	16[%]	25[%]	8[%]	38[%]	25[%]	29[%]

表 3．実施された対策の内容

	項目		最大値	中央値	最小値	平均値
提案・実施内容	CO_2 削減量	[t-CO_2/年]	65.5	2.3	0.03	5.0
	導入コスト	[千円]	384	0	0	25
	運転コスト削減	[千円/年]	1,870.7	88.5	1.5	180.6
	事業所 CO_2 削減割合	[%]	7.2	0.6	0.016	1.0

表 4．提案された対策の実施理由・未実施理由

実施理由	初期費用が安かったため	31	実施理由の大半は、補助金の活用と省エネ効果根拠の確実性である。
	補助金を活用できたため	1	
	投資回収年数が短いため	3	
	省エネ効果の根拠が明確で確実性があるため	48	
	その他　（無回答を含まず）	23	
未実施理由	初期費用が高かったため	4	未実施理由の大半は、操業への影響と設備の機能や運用への懸念である。
	提案された設備の機能や運用に懸念	21	
	補助金を活用できなかったため	3	
	投資回収年数が長かったため	2	
	省エネ効果の根拠が不明で確実性がなかったため	5	
	既存設備がまだ使えたため	7	
	対策実施により事業所の操業に影響が生じるため	59	
	その他　（無回答を含まず）	25	

表 5．同時に実施されることが多い対策

同時実施の順位	メニュー番号	対策メニュー名	同じ大分類
1	21031	LED 照明の導入	
2	14211	配管の空気漏れ対策	○
3	14131	適正容量の高効率コンプレッサー（インバータ等）の導入	○

※ 特記事項

実施された対策について（表 3）

(1) CO_2 削減量の最大値例は、インバータ機がフル稼働で運転し、定速機が低負荷時にアンロード運転を繰り返している工場で、定速機がフルロード運転をするように吐出圧を調整することを提案し実施された。この事例は運転コスト削減の最大例でもある。

(2) 事業所 CO_2 削減割合最大例は、高すぎる吐出圧を 0.15[MPa]調整して電気使用量を約 20[%]削減することを提案し実施された。